

平成 27 年度第 1 回学校評価結果について

第 1 回学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。夏休み前に実施いたしました「学校評価保護者アンケート」では 95% の保護者の方にご回答いただき、たくさんの貴重なご意見をいただくことができました。

結果より

保護者アンケートや児童のアンケートから、本校児童は「楽しい学校生活をおくっている」、「みんなと協力して色々なことに取り組んでいる」児童の姿が明らかになりました。特に本校では、『嵯峨小学校の教育』にも掲げてあるように、子どもを主人公に据えた取組を行っています。児童会活動や 1 年生から 6 年生までを縦割りにしたフレンドリー活動では、子どもの生き生きとした姿を見ることができます。さらに特筆すべき事がらとして、本校児童は社会生活を営んでいくための基盤となる「学校のきまり」、「社会のきまり」など基本的なルールに則った生活ができており、落ち着いた学校生活が送れていることがわかります。また、子どもたちは学校だけでなく、地域との様々な関わりの中で育っていることも明らかになりました。

一方、様々な課題も明らかになってきました。「確かな学力の育成に向けて」でも後述いたしますが、「自分の思いをしっかりと伝えていく」ことに苦手意識を持っている児童も少なくありません。子どもたちが将来生きていく多様な社会の中では、自分の思いをしっかりと持ち、それを表現し、他の人と協力しながら生きていくことが必要になってきます。子どもたちの「伝え合う力」を付けるために、今行っている教育活動について検証し、工夫、発展させていかなければなりません。

学校運営協議会による学校関係者評価

10 月 21 日（水）に学校運営協議会を開催し、平成 27 年度第 1 回学校評価結果についての学校関係者評価をいただきました。今回のご意見をもとに本校の取組を点検し、今後の学校運営に生かしていきたいと考えています。

◎あいさつの徹底

集団登校時には、多くの児童が元気な気持ちのよいあいさつができるようになってきた。しかし、集団登校以外の時や下校時では、あいさつが十分にできていない。自発的なあいさつができるように今後も働きかけていかなければならない。

◎あとしまつの大切さ

トイレのスリッパ等、あとしまつができていない時がある。みんなのことを考えて気遣いの気持ちで行動できる子どもたちに育ってほしい。

◎自ら学習していこうとする姿勢が生まれてきている

放課後まなび教室等で感じることであるが、今までは「宿題をやっていればそれでいい」という子がほとんどであったが、最近は「自分が必要な勉強をやっていこう」とする子どもたちの姿が見られるようになってきた。子どもの意欲を引き出していくための取組をこれからも継続してほしい。

◎子どもたちの主体性を育てる

子どもたちは普段「人にしてもらおう」ことに慣れている。子どもたちが本来持っている能力をさらに発揮できるような場を学校だけでなく、地域でも考えていかなければならない。地域行事での活動を通して、「人のために行動する」子どもたちを育んでいきたい。

■確かな学力の育成に向けて



さらに「わかる授業」を目指していきます。

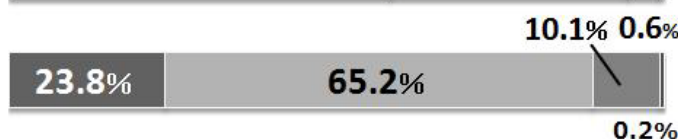
児童

学校での学習はよくわかりますか。



保護者

お子さんは、学校で勉強している内容がわかっていると思われますか。



児童のアンケート結果からは94.7%の児童が、また保護者からはほぼ9割の方に「学習内容が理解できている」という回答をいただきました。学校だより10月号でもお知らせいたしましたが、4月の全国学力・学習状況調査においてもすべての教科で全国平均を上回る結果となっています。今後さらに子どもたちが意欲的に学習に取り組み、わかる喜びやできる楽しさが感じられるような授業を行っていきます。すべての授業でめあてを提示すること、わかりやすい板書すること、考える力を高める授業を工夫することなどを全教職員で進めていきます。

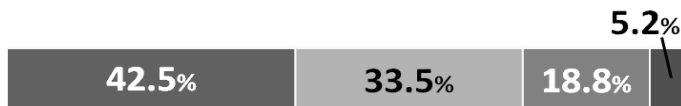
伝え合う力を子どもたちにつける取組をさらに進めていきます。

児童

授業中に、グループなどで話し合うことは好きですか。

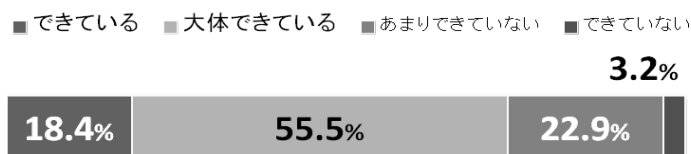


授業中に、すすんで手をあげていますか。



保護者

お子さんは、人の話を聞いて理解したり、自分の思いや考えを話したりできていると思われますか。



一方で、伝え合う力に課題があることが明らかになってきました。9割の児童が「グループで話したりすることは好き」と答えているのに対し、4人に1人の児童が「授業中すすんで手をあげて発表すること」を苦手と感じていることが分かりました。同様に4人に1人の保護者が十分にコミュニケーションの力（話す・聞く）が付いていないと感じられています。これらのことから、小さなグループなどでは自分の思いを伝えることができているが、学級や学年などの大きな集団の中で、自分の意見を堂々と発表したり伝えたりすることにまだまだ課題があることがうかがえます。自分の思いを積極的に言葉で表現しようとする意欲・態度は今後ますます必要になってきます。自信をもって周りに伝えていくためには、ペアやグループでの学習はもちろんのこと、子どもたちの発言中心の授業を今後も進めていかなければなりません。さらに授業だけではなく、学級活動や集会など、あらゆる教育活動の中でも伝え合う力を付けていくための取組を取り入れていく必要があると考えています。また、自分の思いを伝えるためには安心して話すことのできる環境、すなわちよい聞き手を育てていくことも重要であると考えています。

また、「書くこと」については、授業だけではなく、さまざまな活動の中で「書く」指導を進めていますが、授業のあしあとを残していくていねいなノート作りや、自分の思いを文章に表わすといった「書くこと」を苦手と捉えている児童がいることが分かりました。これらのことを踏まえて、今後学校では日常的に子どもたちに「書く」活動を取り入れた授業を工夫するとともに、「書く楽しさ」を味わうことができる取組をしてきたいと考えています。

■豊かな心の育成に向けて



規範意識を育みます。

児童

学校や家でのきまりを守っていますか



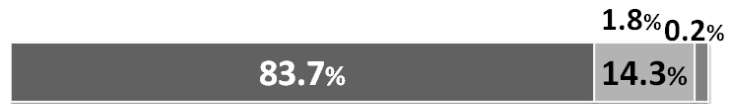
友だちや家の人が悲しくなるようなひどい言葉遣いをしないように気をつけていますか。



家や学校で自分からすすんであいさつをしていますか。

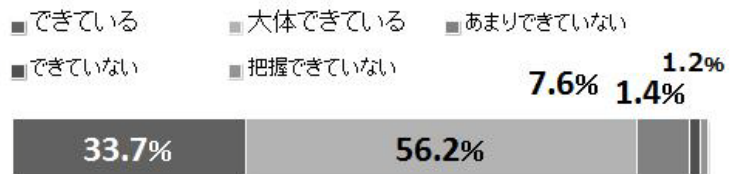


人をいじめたり仲間はずれにしたりしないように気をつけていますか。

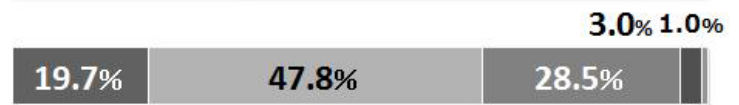


保護者

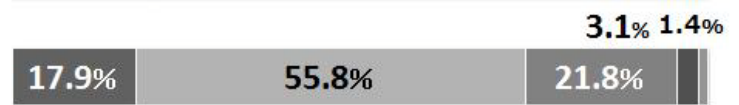
お子さんは、学校のきまりや社会のルールを守れていると思われますか。



お子さんは言葉遣いに気をつけていると思われますか。



気持のよいあいさつができていますか。



学校や社会のルールについては「社会で許されないことは学校でも許されない」という方針で指導を徹底していますが、嵯峨小学校の児童はアンケート結果から、「守らなければならないこと」「してはいけないこと」をしっかり理解しており、規範意識は高いといえます。しかし、保護者アンケートからわかるように、学校外でも同じような行動がとれているかという点、決してそうとはいえません。また、子どもたちの「いじめは許されない」という意識はとても高いことがわかります。「正しいこと」をしっかり理解しているのは嵯峨小学校の児童の素晴らしいところですが、その意識をいかに行動につなげていくかがこれからの課題です。「意識」を「行動化」させていくための指導をこれからも引き続き行っていく予定です。

支えあい高め合う集団作りを進めていきます。

児童

フレンドリー活動は好きですか。

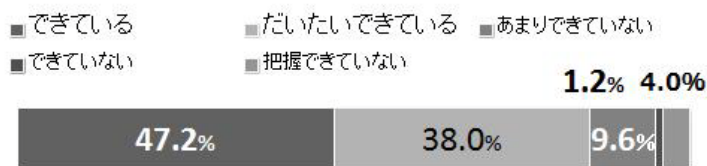


みんなと協力して、いろいろなことに取り組むことは好きですか。

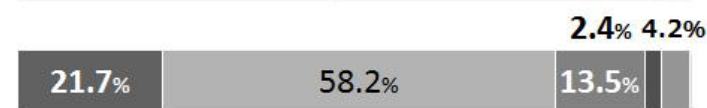


保護者

学級活動や児童会活動、フレンドリー活動などを通じて、子どもの発想を生かした取組が進められていると思われますか。



友だちや周りの人と協力して課題を解決していくことができていると思われますか。



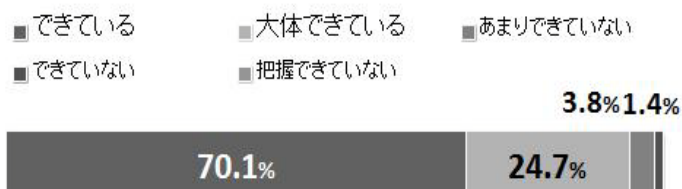
他の人と協働しながら生きていく力が今後ますます必要とされる中、本校では子どもたちの主体性、社会性を育てていく取組を行っています。フレンドリー活動（たてわり活動）を通して、思いやり、尊敬の心を育み、多様な人と協力して取り組んでいく力を育てています。全国学力・学習状況調査においても、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」という質問に対し、嵯峨小の児童は全国平均を15ポイント以上上回る結果となりました。これは子どもたちが嵯峨小学校の取組で、仲間とやり遂げることの素晴らしさを実感し、価値を見出しているといえます。これからも本校のたてわり活動、児童会の取組などについては継続させ、さらに主体的・協働的に学んでいく力を育てていきたいと考えています。

■生きる力を育むために

課題へ挑戦していく力を育てていきます。

児童

難しいことでも、がんばって挑戦していますか。



保護者

難しいことでも失敗をおそれずに挑戦していく力を付けていると思われますか。



「難しいことでもがんばって挑戦していますか」とい質問について、「できている」「だいたいできている」と答えた児童は9割を超えているのに対し、保護者への「難しいことでも失敗を恐れず挑戦していく力を付けていると思われますか」という質問には、半数近い方が「できていない・あまりできていない」と答えています。

今の子どもたちが社会で活躍する頃には、変化に富んだ厳しい時代になるかもしれません。新たなことに直面した時、どのように行動していくかは豊かに生きていく上でとても重要なことであると考えています。本校の児童が豊かに生きる力を付けていくためには、今から「課題に向かっていく力」を付けていかなければなりません。そのためには、小さな課題を一つずつクリアしていく仕組みを作り、体験を積み重ねることが必要となります。全国調査においても、「無回答率（回答欄に何も書いていない割合）」が低い傾向にある一方で、「新しい問題に出会ったときにそれを解いてみたいと思うか」という質問に対し「思う」と答えた児童の割合は決して高くない結果となっています。真面目に最後まで取り組んでいこうとする姿がうかがえる反面、初めて出会うことに対し挑戦していこうとする姿勢が少ないのではないかと分析することができます。今後ますます教職員・保護者・地域が一体となって、嵯峨小学校の子どもたちに「課題へ挑戦していく力」を育てていく必要があると考えています。